

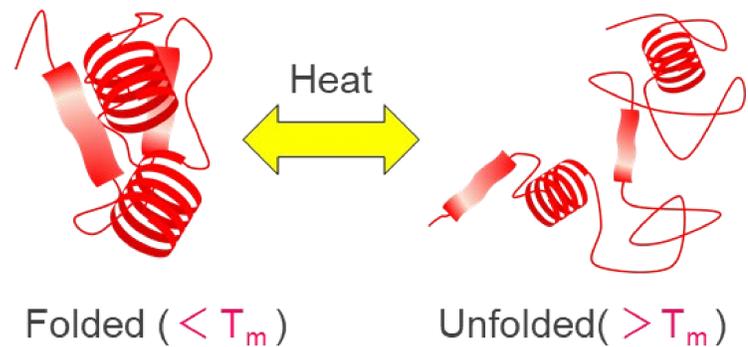
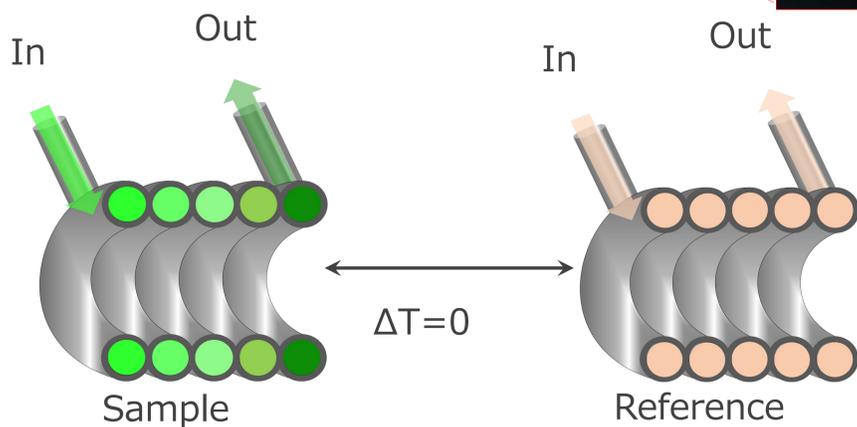
# タンパク質の構造・安定性評価

## 生体高分子用示差走査熱量計 Nano DSC



Nano DSC and DSC Auto

医薬品、食品、生体物質をターゲットとした**熱量計**です。固定型キャピラリーセルは高い感度、簡便なサンプルローディング、変性後の凝集の低減・遅延など、**タンパク質の安定性や変性の評価に最適な特徴**を備えています。オートサンプラーの搭載により、測定効率の飛躍的な向上を提供します。



### タンパク質の安定性、変性挙動評価事例

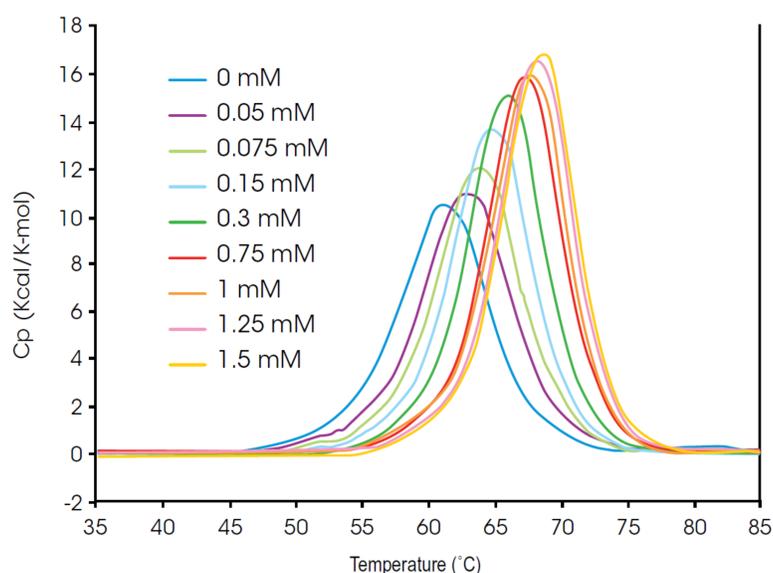


Figure.4 タンパク質-リガンド相互作用

上図は2'-CMP（**阻害剤**）の濃度を増加させた際のRNase A（**タンパク質**）のDSCスキャン結果を示している。濃度増加に伴いピークが高温側にシフトしており、阻害剤との結合により**タンパク質が安定化**されていることがよく分かる。

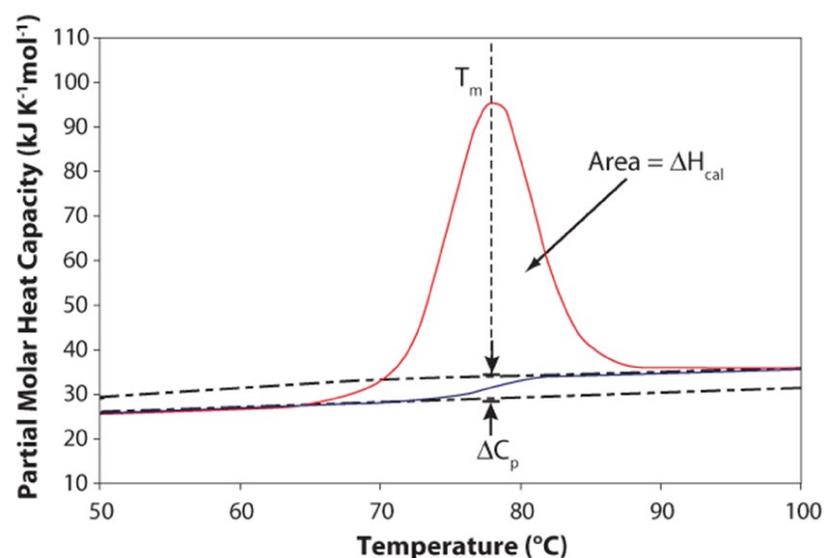


Figure.5 タンパク質変性温度 ( $T_m$ ) 測定

上図はタンパク質の**変性温度**および変性に伴う**熱容量変化**を測定した結果である。熱容量（縦軸）が極大を示す温度 ( $T_m$ ) が変性温度である。また変性前後の熱容量変化 ( $\Delta C_p$ ) もソフト上での解析から容易に求めることが出来る。

[カタログはこちらから→](#)

